

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

## 12人の研究者とともに迫る現代における「絆」の力

『絆』を考える―文学部は考える2』

慶應義塾大学出版会／定価1050円



文学部では2010年から、公開講座シリーズ「文学部は考える」を開催している。本書は、昨年10月に行われたその第2回「絆」を考える」の内容を収録した一冊だ。「グローバルな規模で物質的な価値が巨大化していく現代において、人と人とのつながりにかつてない状況が生まれているのではないか」という問題提起から、社会的・歴史的・地域的にも大きな変貌の時を迎える「絆」をテーマとした本講座は、家族の絆など4つの切り口を設け、「絆」にアプローチしていく。各回、文学部の多彩な学問領域から研究者3名が登壇し、講義や討議する4回の連続講座は、文学部の学際性が躍動している。「絆」はもちろん「学際」という課題への取り組み方についても考えるきっかけとしてもらいたい。

## 教職員執筆の新刊

◎西川俊作（名誉教授）著

『長州の経済構造―1840年代の見取り図―』東洋経済新報社／5040円（2012年1月）

◎山本正身（文学部教授）編

『アジアにおける「知の伝達」の伝統と系譜』慶應義塾大学出版会／3675円（2012年3月）

◎熊倉敬聡（理工学部教授）著

『汎瞑想―もう一つの生活、もう一つの文明へ―』慶應義塾大学出版会／735円（2012年3月）

◎迫桂（経済学部専任講師）、徳永聡子（文学部助教）著

『英語論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会／2100円（2012年4月）

◎服部豊（薬学部教授）著 慶應義塾大学薬学部生涯学習センター監修

『薬剤師のための症候学（第2版）』慶應義塾大学出版会／3150円（2012年4月）

◎片山杜秀（法学部准教授）著

『未完のファシズム―持たざる国』日本の運命』新潮選書／1575円（2012年5月）



## 慶應義塾この一冊

『福澤諭吉と女性』

西澤直子（福澤研究センター教授）著  
慶應義塾大学出版会／定価2625円



女性劣位の思想がはびこっていた明治時代にあつていち早く男女平等を主張した福澤先生は、「女性論」に関する多くの著書を残した。問題の本質をついた持論は人々の反響を巻き起こし、昭和10年代になつても、今日的な課題として論点になり続けた。先駆的な近代化構想を掲げた先生がなぜ女性論にこだわったのか、またそれはわが国の近代化にどのような影響を与えたのか。先生の言論活動の遍歴や、批判の立場からの意見など、さまざまな角度からそれらを問う本書は、先生が掲げた「一身独立」の精神への新たな理解をもたらしてくれるだろう。